

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



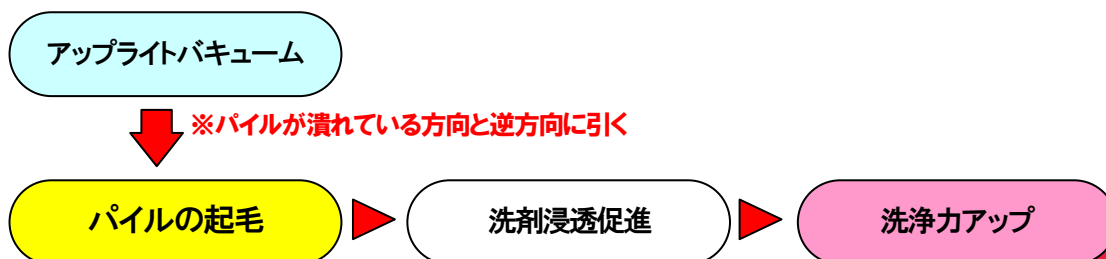
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

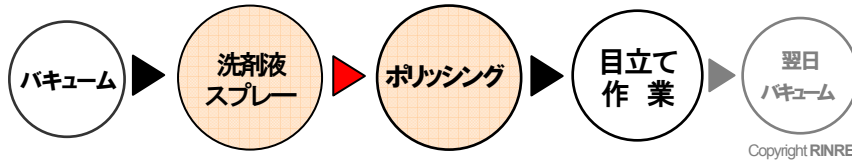
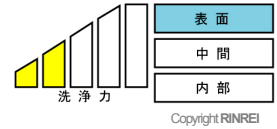
パイルが潰れたままの状態でも洗浄を行っても、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



2 ボンネット（エンカプセレーションボンネット）方式



作業効率: 90 m²/1時間・1名
 使用洗剤: ボンネットカプセルクリーナー
 ※前処理剤はプレスブレードクリーナー
 使用機材: ・カーペットポリッシャー
 ・カーペット用ボンネットパッド
 ※片面約 15 m²毎に交換
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)

- [長所]
- 水の使用量が少なく、短時間で乾燥する。
 - 使用機材もわずかで、作業も簡単に行える。
 - ランニングコストを安く抑えることができる。
 - ウィックバック発生を抑えることができる。

- [短所]
- パッドが汚れを吸着するため、頻繁に交換または洗浄・脱水する必要がある。
 - この方式を繰り返していると洗剤分の残留により再汚染が促進することがある。
 - 凹凸のあるパイルや毛足の長いパイルの場合には不向きである。

(メンテナンスポイント)

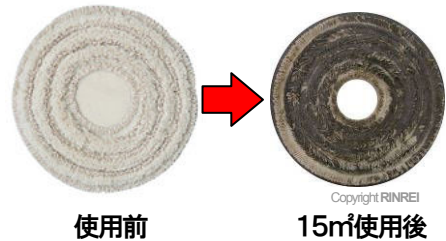
カーペットの表面の汚れのみを除去する事に特化したクリーニング方式です。

カーペットの表面の汚れをボンネットパッドに吸着させて除去する作業のため、ボンネットパッドが汚れきる前にパッド面を交換しなければなりません。交換の目安は 15 m²程度ですが、汚れの状況に応じて交換の頻度を変更しなければなりません。

スプレー液の標準散布量は 55mL / m²(10倍希釈液) 程度です。

カプセル系洗剤を使用した場合には、乾燥後に必ずアップライトバキュームを使用して、パイル表面に皮膜化した洗剤成分と汚れを除去しておく必要があります。再汚染と汚れ除去性劣化の原因になってしまいます。

洗浄作業終了後、必ずパイルの目立てを行い、パイルを起毛しておきます。



洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ペロア等	毛足長い サキソニー等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ローループ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	▲	×			×	●
ウルトン	▲	×			×	●
タフテッド	▲	×	▲	○	×	●
タイルカーペット	▲	×	▲	○	×	●
コードカーペット				▲		
電着(人工芝など)	▲	×				
ニードルパンチ※	▲ パイルの無カーペット					

Copyright RINREI

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可